

9 お わ り に

『こんな道場に来るもんか』から、今日まで

吉田教場では、一般の方、師範をされている高校の生徒、他大学の学生と、多くの方々が稽古に来られておりました。最初の頃は、その満座の前で叱られ恥をかいったり、二時間以上も正座のまま、先生のお話を伺ったりと、逃げ出したくなるような一日であったのです。最初は我慢をしておりましたが、このような稽古が何日も続き、「来週はこんな道場に来るもんか」と心の底から思ったものでした。しかし翌週になると自然に、足が西荻の方へ向かっているのです。怖くて心の中で反抗してみたのですが、先生には人を引きつけるすごさと魅力がありました。射技射法・弓道理論・人格識見どれをとっても超一流なのです。今にして思えば、私が部を立ち上げるに当たり、どれほど本気で真剣なのか試されたのだと思います。一ヶ月が経ち、三ヶ月、半年、一年と経過するにつれ、いやだったことが楽しくなり、その後怒鳴られ涙したことも何度かありましたが、大学の講義をさぼってまでも西荻の道場へ出かけるようになったのであります。

最終学年では、何かあると「山崎、山崎」とおっしゃって道場から居間に私を呼び寄せ、父の関係からか「こいつは孫弟子だ」と本当の孫のように、他の人も羨むほど可愛がって戴き、感謝致しております。実際私の祖父も明治二十四年生まれですので、先生にとっては父が息子で、私が孫のように感じられたのでありましょう。

卒業後も度々三戸へお越し戴き、我が家の廣楓館弓道場で一般弓人の方々と、吉田教場同様のご指導を戴きました。この稽古もその後の射技射法の向上に繋がり、更に上を目指す励みとなったものです。その他にも私の勤務校の道場開き、私の担当する高校生の指導、私の結婚式、父の選挙の応援演説、十和田湖や十二湖への観光旅行、青森のねぶた祭り、八戸の生ウニ料理のお食事会等、数え切れないほどの思い出があります。

このような状況の中で本物の弓道を教わり今日の私があります。このご恩に報いるためにも、しっかりと先生の教えを受け継いで、次の世代へ伝えて行かなければならないと、創部40周年を節目とし、筆をとった次第であります。

この度、ホームページへの寄稿にあたり、本稿の編集、校正、PDFへの変換等は、全て吉仲紀子OGお一人に行なって戴きました。彼女は現役時代、吉田師範の秘書役を仰せつかったご縁から、快く引き受けてくれました。会社の仕事を終えた後、自宅での編集作業であり、そのご労苦は大変なものだったと思われます。この場をお借りして、そのことを皆様にご紹介し、感謝申し上げます。

結びにあたり、桜美林大学弓道部もめでたく創部40周年を迎えることが出来ました。これも偏に、吉田先生始め多くの皆様方のご支援ご協力の賜と、心から感謝と御礼を申し上げる次第であります。

OB 諸氏、そして現役諸君のさらなる活躍を期待し、あわせて桜美林大学体育会弓道部の益々の発展を心から願っております。50周年を楽しみに！